

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0770200814	
法人名	特定非営利活動法人カオス	
事業所名	認知症対応型共同生活介護グループホームこすもす	
所在地	福島県会津若松市神指町大字黒川字湯川東228番地	
自己評価作成日	令和2年2月13日	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉ネットワーク
所在地	〒974-8232 福島県いわき市錦町大島2番地
訪問調査日	2020年3月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気の中で、入居者の方おひとりおひとりのペースを大切に、その時々の方の気持ちの波に寄り添い自分らしく安心して過ごしていただけるよう支援している。家事やレクリエーション等、日々の様々な場面で入居者の方の出来る事・出来そうな事への視点を大切にしてお一人お一人が持っている力を発揮できるよう働きかけ意欲を持って過ごしていただけるよう支援している。また入居者の方の体調・心情面での気づきを職員間で共有し医療関係者と連携しながら状態に応じたケアをさせていただきよう努めている。地域の行事参加やボランティアの方に協力をいただく等地域との関係作りに努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員は利用者と接する時間を増やしサービスの充実を図るため、書類の記入方法を記述式からチェック式に改善したり、夜勤者の朝食準備を軽減するなど業務改善に積極的に取り組んでいる。
職員一人ひとりが事業所理念とそれに基づいた年間目標を立ててケアに取り組んで、チームワークよく活動して事業所の目標達成に向かっていく。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々の方の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念をいつでも確認できるように掲示している。それらをふまえて日々のケアをカンファレンスやミーティングを通して振り返り、管理者・職員間で共有し実践につなげている。	事業所理念を元にした利用者支援の年間活動目標を立てている。職員は事業所目標と連動した個人目標を立て、理念の実践に取り組んでいる。ミーティングや日々のケアの中で実践を振り返り、内容の深化に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している	前年度より町内会に加入している。近所のスーパーの買物や夏まつり等の催し物に参加したり、中学生の職場体験やボランティア活動も広く受け入れるなどして地域との交流の機会を設けている。	町内会に加入して、町内会の夏祭りや地域の文化祭に参加している。文化祭には利用者の作品を積極的に出品している。中学生の体験学習や市と民間のボランティアも受け入れ、利用者はフラダンスや日舞、語りなどを楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	初任者研修の実習の受け入れや入居申し込みの際に認知症の方の対応について相談に応じている。また、地域の包括と共にキャラバンメイトとして認知症の方の理解や支援方法を認知症サポーター養成講座を通して行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	近況及び課題の有無と内容を報告している。ひやり・アクシデントの事例も紹介しメンバーの方から意・アドバイスをに向けて行動するよう努めている。	会議では利用者の状態を報告し、今後の行事などについて説明している。委員からは様々な意見が出されている。地域との交流の推進では町内会主催の夏祭りに参加して、住民との交流を深めるなど、意見の反映に取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	広報誌などで事業所の活動やケアサービスの取り組みを伝えている。また、疑問点があればその都度市の担当者の方に確認している。	高齢福祉課には利用者の状態などを報告している。市の認知症と医療の連携を図る推進会議に参加し、市民からの福祉に関する問い合わせには市と連携して対応している。法改正や厚労省の通達の市の説明会に出席し、業務に活かしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	行動を制限しないケアを心がけている。また言葉による拘束にも留意している。研修会の参加や勉強会を実施し職員全員が見守ることの必要性を正しく理解しながら身体拘束をしないケアに取り組んでいる。運営推進会議で身体拘束の有無について報告し日頃のケアが身体拘束に繋がることのないよう話し合いを行っている。	法人の研修会に参加し、施錠のあり方、転落防止での柵の使用法など身体拘束をしないケアについて具体的に学んでいる。内容は職員会議で報告し、内容の共有を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会や勉強会を通して虐待について学ぶ機会を設けている。また、虐待の芽チェックリストを活用し日頃のケアを振り返り虐待に繋がることのないよう職員間で共有し確認しながら防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会の参加や初任者研修の講義を通して制度について学ぶ機会をもっている。また家族からの相談にも対応している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用の方ご家族から不安なこと疑問点がないか伺いながら出来るだけわかりやすく説明を行い理解・納得が得られるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者の方からは日頃の会話や様子から意向・要望を把握できるよう努めている。ご家族からは面会時や行事等を通して意見・要望を伺い運営に反映している。	利用者からは日々の生活の中で、家族からは面会時に意見や要望を聞いている。家族同士で交流を持ちたいとの要望に応え、年2回交流会を開催している。そこで交わされた意見や要望は、事業所内で検討し改善に繋げている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	週1回事業所でミーティング行っており職員一人一人が意見・提案ができる機会を設けている。業務改善・サービスの質の向上に繋げられるよう代表者にも声を上げ反映させている。	毎週、意見や提案を聞くミーティングを設けている。職員の提案により利用者サービスに力を入れるため、事務作業の見直しが行われている。介護日誌の様式が記述方式からチェック方式に変更されるなど、運営に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	経験年数に応じた評価表の活用や資格取得やミーティング参加の皆勤者への手当など、向上心を持って働けるよう職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のレベル・キャリアに応じた法人内外の研修会への参加の機会を設けている。また研修で得た知識を勉強会を行い職員間で共有できるよう取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福島県グループホーム協会に加入している。研修等を通して情報交換等で交流を図りながらサービスの質の向上をさせていく取り組みを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人のお話を伺い心配事や不安な気持ちを受けとめ安心していただけるよう日々の生活の中で関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が現在困っていること、不安や要望に耳を傾け出来るだけ思いに沿った支援を行い安心していただけるよう関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族や今まで利用されていたサービス事業所職員から情報を得るなどして現在の状況を把握し必要としている支援に沿えるよう努めている。また状況に応じて事業所で出来る事・出来ない事や他サービス事業所の説明等を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中で入居者の方のできること・得意分野を活かしながら生活していただいている。様々な活動を通して入居者の方から学ばせていただいている。暮らしを共にする者同士関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	これまでの生活歴など情報をいただきケアに活かしている。また行事の参加や受診の対応等協力していただき共に本人を支えていく関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時はご本人・ご家族の希望の場所でゆっくりと過ごしていただけるよう配慮している。また、ご家族の協力を得て馴染みのシーや美容室などへの外出等関係性の継続の支援に努めている。	面会の人には居室に案内し、お茶を提供し、近況などを報告している。帰りには玄関まで見送り、再訪の声かけをしている。馴染みの美容室にはタクシーで出掛けたり、迎えの車で利用を続けている。受診の帰りに馴染みの店で家族と外食を楽しんだりしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の方の関係を把握し気の合う方同士など席の配置に工夫している。また活動を通して時には職員が間に入りながら入居者の方同士の良好な関係が保てるよう支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院退居された方の面会や近況を伺う等して関係性を大切にしている。また退居された方のご家族が庭の手入れや除雪等のボランティアに来て下さっている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の何気ない言葉や行動・表情などから本人の思いや意向の把握に努め気づいたことを記録し情報を共有している。また定期的または必要に応じてカンファレンスを行い本人の意向に沿えるよう取り組んでいる。	表現できる利用者からは直接本人から意向などを聞いている。難しい人は日常の何気ない言葉や記録を読み直したり、家族から聞いた生活パターンを参考に、行動や思いを探る話し合いを職員で行い、意向を共有している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を活用し入居前のサービス事業所担当者からの情報やご家族から伺うエピソード等を職員間で共有し経過の把握に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	今までの在宅や施設での過ごし方や習慣をふまえ日々の生活の様子を記録し身体状態も含め今出来ることの把握に努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	原則3ヶ月毎にモニタリングを行っている。計画作成の際にはご本人・ご家族また主治医・看護師の意見を伺い反映させている。	利用者の担当職員を中心に、本人・家族・医療機関の意見を踏まえて基本計画を策定している。定期的な見守りの中で状態を確認し、家族の要望を聞いたり医師の見解を取り入れながら全員で見直しを行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケア内容に加え気づきや工夫を個別の記録に記入しその都度カンファレンスを開き職員間で共有している。またお一人おひとりに即したケアの実践や介護計画の見直しを行っている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々状況や身体の状態に応じてご本人・ご家族の意向を伺いながら医療機関・福祉用具等の他事業所との連携を深めつつニーズに対応している。またボランティアの方との繋がりも大切にしている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	中学生の体験学習等を通して交流の場を設けたり出張の美容師の方に来ていただき会話を楽しませている。週1回地域のボランティアの方と一緒に歌や体操を一緒にいき暮らしを楽しむ事が出来るよう支援している。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・ご家族の希望でかかりつけ医を選択していただいている。隣接するクリニックが協力医院となっており状況に応じて訪問診療や緊急時の対応など適切な医療が受けられるよう支援している。	かかりつけ医は家族対応での受診が基本であること説明している。協力医の場合も家族対応で行い、受診に際しては利用者情報をメモにして渡し、結果は医師からの手紙や看護師から報告を受けている。家族対応が無理な場合は、職員付き添いの元に行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションから週1回看護師が来所し健康状態をチェックしている。状態変化時は隣接した協力医院のクリニックや訪問看護へ報告し適切な受診や看護が受けられるよう支援している。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は医療機関に情報を提供し病院関係者と連携を図っている。入院中も面会を行いご本人との馴染みの関係が継続できるよう配慮しながら病院関係者と情報交換や相談に努めている。退院時は退院後の療養についてアドバイスを得ている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の支援について早い段階から可能な事や困難な事をご家族と話しあっている。ご家族の意向を確認し治療及び介護・看護を受けていただいている。看取りについては状況をみながら文書を持って説明しご家族を含めたチームで心身共に苦痛の少ない終末期ケアを行えるよう努めている。	終末期の方針は入居時に事業所が出来ること、出来ないことを説明して、家族の理解を得ている。利用者の状態が変化し、医療行為が必要になる場合は、医師の立ち会いで改めて家族と協議し、今後の方針を確認している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訪問看護ステーションの看護師による緊急時の事故発生時に備えた応急手当や初期対応等の勉強会を実施している。また普通救命講習受講により知識・技術の習得に努めている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災訓練を実施し年に1回は消防署立ち合いのもと指導を受けている。また防災設備の業者の方にも指導助言をいただいている。新人職員が入職した際も教育訓練を行い周知徹底を心掛けている。また地域の消防団の方にも避難訓練に立ち合いの協力を依頼している。	火災と地震を想定した避難訓練を年2回行っている。消防署員立ち会の上2箇所の避難所を設定し、近隣住民の参加も広げながら更なる協力体制づくりを進めている。水、缶詰、米などの食糧品を3日分備蓄している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	目上の方に対する尊敬の気持ちを持った言葉づかいや対応を心がけている。また排泄や入浴の際の声掛けにはおひとりお一人の気持ちに配慮してできるだけ肌の露出を少なく出来るよう対応している。	呼称はさん付けを基本にしている。利用者は目上の人であることを研修で指導している。居室には、利用者がフロアにいる場合は本人の了解を得て入室している。在室の場合はノックをして、声かけしてドアを開けるなどプライバシーを尊重している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	上手く言葉で表現できない方でも自己決定や選択が出来るよう心がけている。入居者の方の発する言葉の裏側や心の声にも耳を傾けるよう努めている。表情・仕草・行動からもご本人の思いを汲み取れるよう務めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おひとりお一人の生活スタイルや体調に合わせて無理なく負担のないように過ごしていただいている。日常の中で自己決定ができるよう伺いながら希望に沿えるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えや外出の際に衣服を選んでいただいたり、化粧をしていただいたりご本人の意向を取り入れる工夫を行っている。2か月に1回美容師に訪問していただいております。ご本人らしい身だしなみの支援をしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	近所のスーパーに職員と一緒に食材を選んでいただいている。旬の食材や伝統行事に合わせたメニューを提供し会話を楽しんでいただいたり食事を味わっていただけるよう支援している。また、食事の下準備・盛付け・片付けなどを一緒に行っている。	メニューは旬の食材を使い、利用者の希望も取り入れて職員が作っている。利用者は芋の皮むきを手伝ったりして配膳したり、一人ひとりの力に応じて手伝ってもらい、楽しい食事になるように協力している。外食も家族の協力で受診の帰りに楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューが偏らないよう工夫している。毎回主食・副食・水分の摂取量を記録しながら不足がちな方には代替の物で提供させていただいている。またおひとりお一人の状態に合わせ食事の形態に工夫し提供させていただいている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛けを行い磨きが不十分方にはご本人に確認しながらお手伝いさせていただいている。困難な方には歯ブラシ・スクラブ等を利用し清潔に務めている。義歯は就寝前に洗浄剤で消毒させていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	おひとりお一人の排泄パターンの把握に努めている。状況に応じて声掛けには歩行訓練や散歩の流れでお誘いする等配慮している。またトイレサインをキャッチしご本人の不快のない対応を心掛けながら排泄の自立の支援を行っている。	車イス利用者でもトイレで排泄出来る、を目標にしている。食事やおやつの前などの定時誘導のほかに、利用者一人ひとりのパターンを把握し、声を掛けてトイレに誘導することで、リハビリ使用が布パンやパット使用にまで状態が回復することに繋がっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取や、便秘予防に繋がる食材を使用した食事作りを心掛けている。又、おひとりお一人に応じて、入浴時に腹部マッサージ、運動を兼ねた掃除など工夫をしている。医師と相談のうえ、処方薬も取り入れ、便秘予防に繋がられるような対応を心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	おひとりお一人それぞれの、習慣や思い、又その時の気分を汲み取り、気分良く入浴していただけるよう、心掛けている。またしょうぶやゆず湯等、季節を感じていただいたり入浴剤の色や香りでも楽しんでいただく工夫をしている。	利用者の気持ちを大切にされた入浴を支援している。ゆず湯や菖蒲湯、入浴剤を使用したり、仲の良い人と一緒に入ることを勧めたり、気持ちよく楽しい入浴になるよう工夫している。難しい人にはシャワー浴などで清潔を保持している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の習慣を考慮しながら休息を取っていただいている。寝つけない方にはホールにご案内しお話を伺ったり温かい飲み物を飲んでいただいたり安心して休んでいただけるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報が常時確認できるよう個別のホルダーに入れ薬袋にも薬の名前を記入している。薬の変更時は記録に記入し状態の変化観察に努めている。また服薬についてはおひとりお一人の出来る事・嚥下状態に合わせて安全に服薬していただけるよう支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	外出や季節の行事・誕生会などの他、おひとりお一人の生活歴を活かし充実感や張り合いのある生活を送っていただけるよう取り組んでいる。また嗜好品等できるだけ希望に沿えるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買物や散歩などおひとりお一人の希望に沿った外出の支援を行っている。また花見や紅葉ドライブ菖蒲まつりなど季節の行事や馴染みの場所への外出も行っている。	利用者は、天候の良い日は事業所周辺を散歩したり、食材の買い物に同行したりして外出を楽しんでいる。お城や大学周辺へ花見や紅葉狩り、あやめや花菖蒲見学、猪苗代湖へのドライブに出掛けしている。家族の協力で自宅に寄ったり外食も楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買物に同行していただいた時に購入したい物や食材を選んでいただく等してお金を使用する事を身近に感じていただけるよう支援している。また個人で管理されてる方もおられ買物時はご自分で品物を選び支払いもされる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族からの電話はいつでも取次お話できるよう支援している。ご本人様から要望があれば、その都度対応させていただけるような態勢を整えている。手紙についてはご本人にお渡し又はご家族に報告しており、やり取りができるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を取り入れた飾り付けを行っている。温度・湿度の管理に努め、光が刺激にならないようロールカーテンで日差しの調整を行ったり、掃除機やミキサーなどの生活音に留意し使用する時は一声お断りさせていただくなど居心地良く過ごせるよう心がけている。	木質を取り入れた騒音のない居間では、利用者一人ひとりその人のペースで心地よく過ごしている。エアコンと加湿器が設置され、毎日、10時と15時に温度湿度をチェックし、利用者が居心地良く過ごせるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルの席やレク時の位置等、入居者の方向士の相性や関係性を考慮しながら状況に応じた居心地の良い居場所づくりに務めている。廊下にソファやイスを配置しており、独りになれたり入居者の方向士やご家族、職員とゆったり過ごせる空間となっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切に本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている。 (グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている。	入居者の方が今まで使い慣れた家具等を、ご本人・ご家族と相談しながら配置し、写真などの馴染みの物を活かし居心地良く安心して過ごしていただける環境となるよう配慮している。	使い慣れたタンスや衣紋かけ、家族写真や人形など思い出の品々を持ち込んでいる。部屋の壁などには好みのキルトなどの装飾品をあしらひ、本人が居心地良く過ごせるように工夫している。テレビやラジオで好きな番組を楽しんでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室の飾り棚・洗面棚はおひとりお一人色分けしている。また状態に応じて居室に名前を明記し分かりやすくする等、出来るだけ戸惑いなく行動できるよう工夫している。廊下や居室の移動空間は極力物を置かないよう留意している。		